

韓国語授業におけるポートフォリオの活用

—学習者参加型授業をめざして—

李 熙 卿

要旨

近年、大学の教育は、グローバル化や社会の急激な変化に対応できる多様なニーズを持つ学生を受け入れ、育成するため様々な改革が行われている。このような改革は、目に見える改革のみならず、これまで可視化できなかった教育の質的な変化をも求められるようになった。

このような大学教育の質的な変化によって、教員が一方向的に知識を伝達する講義式の授業から、学生自身が授業に主体的に取り組めるよう、さまざまな方法を試み、工夫しながら学生と教員との双方向授業をめざしていく教育方法を模索する必要がある。本稿は、特に、大学における初修外国語としての韓国語授業における「学習者参加型」をめざすことを目的とし、韓国語授業における学習者の能動的な授業参加を促すことができる「学習ポートフォリオ」の活用を半年間試みた結果である。「学習ポートフォリオ」の構成では欠かせない「振り返りシート」を授業始めと授業終わりに取り入れることにより、学生たちに学習に対する態度の変化が見られた。具体的には、「振り返りシート」を15週間毎週書かせた結果、118名の内、7割以上の学生が5段階評価の満足度の中で4点以上に回答している。また、「①その日に初めて知ったことや学んだことなどを書き示したり、勉強時間などを記すことで、自然と知識が増えたり学習の習慣がついたので自分の為になった、②自分の学習状況を把握できる、③紙面上ではあるが、先生とのコミュニケーションがとれるため、先生との距離が近くなる感じがしてよかった」などの肯定的な自己省察の効果が出ている。

キーワード：

学習ポートフォリオ、学習者参加型授業、振り返りシート、自己省察、自律学習

1. はじめに

近年ボーダレス化やグローバル化による社会の急激な変化が起きている。このよう

な社会の変化に伴い、大学における教育は様々な背景による多様なニーズを持つ学生を受け入れるようになった。そこで、大学教育はこのような変化を反映するため、質的な改革が強く求められている。質的な改革については、「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ」という改革案が、平成24年8月28日の文部科学省中央教育審議会答申¹に具体的な案が示されている。質的な変化と学生の能動的、主体的な力を育成する教育へと改革が求められている中、学生の主体的な力を育成するためには、これまで行われてきた教員の知識を一方向的に伝えるだけの講義式授業ではなく、学生を授業に積極的、能動的に参加させ、教員と学生の相互関係のなかでお互いに学び合う授業をめざしていく必要がある。

文部科学省の大学評価基準報告書には、授業の質的改善方法の一つとして、最近「学修ポートフォリオ」や「ティーチングポートフォリオ」などの用語が用いられ、このような質的な改革に取り組んでいる大学のほうが高く評価している。平成28年12月13日の文部科学省調査報告書には「学修ポートフォリオ」について以下のように提示している。

「学修ポートフォリオ」は、「学生が、学修過程ならびに各種の学修成果（例えば、学修目標・学修計画表とチェックシート、課題達成のために収集した資料や遂行状況、レポート、成績単位取得表など）を長期にわたって収集し、記録したもの。それらを必要に応じて系統的に選択し、学修過程を含めて到達度を評価し、次に取り組むべき課題をみつけてステップアップを図るという、学生自身の自己省察を可能とすることにより、自律的な学修をより深化させることを目的とする。従来の到達度評価では測定できない個人能力の質的評価を行うことが意図されるとともに、教員や大学が、組織としての教育の成果を評価する場合にも利用される。」

このような改革への取り組みは、大学の外国語教育、特に、初修外国語としての韓国語教育においても影響する。つまり、言語教育においても教員の一方的な授業ではなく、学生の主体的に考える力を育成して、能動的に授業への参加を促し、事前・事後学習の準備学習に取り組む習慣を身につけるための授業改善について考えざるを得なくなった。

そこで、本稿の大きな目的は、学習へのモチベーションが低い学生の学習時間をさ

らに増やし、自律学習の習慣をつけるための一つの教育方法を探ることにある。本学の外国語教育研究所の学生による授業評価アンケートの調査項目のなかには、学生の準備学習時間を回答する項目があるが、教員から見て学習時間が足りないと思われる。また、本学の外国語教育の教育目標になっている異文化理解能力を育成するため、授業の中で文化について学生自身に気づかせる教育方法論的アプローチでもある。

学生の準備学習時間を増やし、学生自ら学習に取り組む自律学習の必要性を気づかせる一つの方法として導入したものは、「学習²ポートフォリオ」の活用である。具体的には、2017年度前期の15週間の授業の中で毎回学生に「振り返りシート」³を記入させ、その記録をまとめてファイルに保管するように促したことである。その結果については3節以降に詳しく述べていく。

2. 学習ポートフォリオについての先行研究

前述したように、質的な授業改善の一つの方法として、教員の一方的な講義ではなく、授業に学生を能動的に参加させ、学生が教育過程を自ら随時確認できるようにする方法として「学習ポートフォリオ」が活用できる。「学習ポートフォリオ」とは、学生が自分の学習について記録した「記録集」で学習しながら出てきた作品や結果物などをまとめたファイルである。このファイルを見ると学習のプロセスが全体的に「見える化」できるというメリットが挙げられる。

一方、平成28年12月13日文部科学省の資料「平成26年度の大学における教育内容等の改革状況について(概要)」を見ると、学習ポートフォリオを導入している大学は214校で、全体の28%と、まだ改革の途中と言えるであろう。

「学習ポートフォリオ」の代表的なものとしては、ヨーロッパ評議会(Council of Europe)によって考案された「ヨーロッパ言語共通参照枠組み」(Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment)の目的を実行する教育的ツールとしての「ヨーロッパ言語ポートフォリオ」(European Language Portfolio)、略して、「ELP」が挙げられる。

独立行政法人国際交流基金ヨーロッパ日本語教師会(2005: 54-55)には、これまで約70種類が開発され各国で活用されていると紹介されており、その機能は、報告的機能(reporting function)と教育的機能(pedagogical function)から次のような役割が挙げられている。

《報告的機能》

- ・ 公的試験で与えられる言語に関する資格を補足するものとして、ELP所有者の具体的な言語学習経験、外国語の熟達度、到達度を示す。
- ・ 学校教育内、学外両方の言語学習を記録する。

《教育的機能》

- ・ 複言語主義、複文化主義を促進する。
- ・ 言語学習過程を ELP 所有者に、より分かりやすく示し、自律学習 (learner autonomy) を育成する。

また、報告的機能と教育的機能を担うものとして、言語パスポート、言語学習記録、資料集の3つから構成されている。言語パスポートは、学習者自身がCEF参照レベルに基づいて自分のレベルを自己評価したり、異文化体験を記録したり、教師の評価を書くなどの総括的評価が記入されるもので、言語学習記録は学習者が自分の学習を計画してそれに向かって実行していく学習過程を日誌のように記録していくものである。この言語学習記録は、自律学習を促し、長い間学習を続けられる力の育成にもつながると言える。また、資料集は、学習者が学習過程で出てきた教師からのフィードバックやプロジェクト学習の結果物をまとめたものになる。

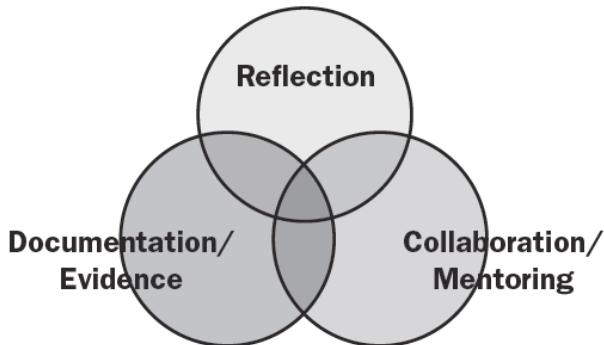


図1 Zubizarreta, J., • Columbia college, SC (2008)

図1のポートフォリオの構成は、振り返りシートなどによる「自己省察」、授業の過程で出てきた資料や小テスト、作文課題などの結果物をまとめた「文書化」、「証拠資料」、ペアワークやグループワークなどの「協同作業」、学習者同士や教員と学習者と

のやり取りで学び合う「メンタリング」になっている。

一方、日本における先行研究としては、このような学習ポートフォリオの活用で、授業改善などの肯定的な成果が見られたものがある。(村田2002、下2007、河野2013、吉重2016など)

村田(2002)は、学びを促す授業としてポートフォリオ評価を取り入れた結果、①学生のやる気や自信につながる、②家庭学習時間が伸びる、③学び方を会得するなどの肯定的評価が得られている。また、吉重(2016)は、英語の授業におけるポートフォリオの導入効果についての事例報告で、学生24名に対し、今日の目標、わかったこと、理解できたこと、感想や質問などの項目を記入させた。その結果、教師側からは、①学習状況および実態の把握、②教師と学生とのコミュニケーション、③授業の振り返りと改善の大きく3つの効果をもたらすと考えられ、学生側からは、①授業前の目標設定による自律学習の促進、②自身の学習状況や学習過程の把握と振り返り、③教員とのコミュニケーション向上などの効果があると報告されている。

清田(2017:13)は、現在の外国語(英語)学習は、学校での学習という枠の中にとどまり、将来社会に出た後、実際に外国語(英語)を活用していくという意識が十分ではない。そこで、外国語学習ポートフォリオの重要な観点は、自律的に学習に向かう能力を育成し、「学習者」から「将来の使用者」へという意識を育てることに意義があると述べている。

学習ポートフォリオの活用は、学生側だけでなく、教える教員側から見ても、教員が何をどのように教えていたかを一目で確認できるというメリットがある。このようなメリットから、和泉(2016:258)は、教員も自分の授業についての「振り返りシート」の活用を勧めており、教員の「振り返りシート」は「省察の実践」につながることを以下のように示している。

振り返りシートの活用で期待されるのは、「省察の実践・反省的实践(reflective practice)」と呼ばれる行為である。経験したことを、単なる過去のできごとにするのではなく、今一度反省点を見出し、これからの行動に生かそうという試みである。我々は、行動している最中にも、自分と周りのことをモニターして省察を行っているが(reflection in action)、これに加えて、行動した後でも、改めて自分を振り返って反省している(reflection on action)。これらの省察はどちらも、自己向上の過程で欠かすことができない要因と考えられている。ここで大事なことは、単に何か

行動を起こすというだけでは不十分であり、その後振り返るという行為があって、初めて学びと成長が生まれるという点である。

平成24年度文部科学省の資料によると、「ティーチングポートフォリオ」を導入している大学は、25.7%の197校で全体の4分の1あまりとなっている。

以上、学習ポートフォリオに関する国内外の先行研究を概観してきた。英語教育や全学的なe-ポートフォリオ導入などの研究⁴はあるものの、大学教育のポートフォリオ活用研究は十分とは言えず、特に初修外国語における研究はまだ少ないのが現状である。次節では、韓国語授業における学習ポートフォリオの活用について具体的に提示する。

3. 韓国語授業における学習ポートフォリオの活用

3節では、2017年度前期に筆者が本学で担当したクラスで実施した学習ポートフォリオの活用について提示する。学習ポートフォリオを導入して振り返りシートを記入させ、自分の韓国語学習についての準備学習状況や授業の中で文化について気づいたこと、当該授業についての質問などを記入することで得られた結果であり、大学の学習にまだ慣れていない学生、特に、1年次の初年次教育にもつながっている。

学習ポートフォリオを活用したクラスは、1年次対象の韓国語Ⅰ、2年次以上の韓国語Ⅱ、3年次以上の韓国語Ⅲ、2年次以上から週4回の授業を受ける韓国語インテンシブのクラスおよび医学部の看護学科と医学科、6つのクラスの学生118名を対象としている。

韓国語Ⅰ、韓国語Ⅱ、韓国語Ⅲ、医学部看護学科韓国語、医学部医学科韓国語の授業は、教養として韓国語を履修する週1回90分の授業で毎週実施したものである。(資料1と資料3参照) また、韓国語インテンシブのクラスでは、週4回の授業のうち、週3回は、担当者3名が90分の通常の言語教育の授業を1回ずつ担当しており、パソコン教室での授業も週1回行われている。週4回の中で筆者が担当している週1回の授業で振り返りシートを実施しており、パソコン教室での授業では、パソコンを活用してテーマ発表をする「プロジェクト学習」を行っている。このパソコン教室での授業は、グループのプロジェクト活動について、それぞれの学生が毎週振り返りの日誌を記入したものを提示する。(資料4と5参照)

2017年度第1週目の授業で、それぞれのクラスで、「学習ポートフォリオ」を導入する意義について説明をした。特に、自分の学習に自分が責任を持って取り組み、その

過程が一目で分かるように、ファイルを用意してファイリングすることの大切さを伝えていく。

授業が始まったら、プロジェクターを使ってシラバスを画面に映しながら学生と教員が当日の授業の進捗や目標などについてお互いに確認し合っている。このとき、「振り返りシート」に、授業についての事前学習および事後学習はどの程度行ったかを記入させている。また、授業の最後には、その授業全体で感じたこと、授業の中で日本と韓国の文化について何か気づいたこと、授業中にできなかった質問などを記入するように促している。

そして、前期最後の15週目には、毎週行ってきた振り返りシート記入についての5段階評価の満足度調査を実施している。(資料2参照)

このような流れについて表しているのが図2である。

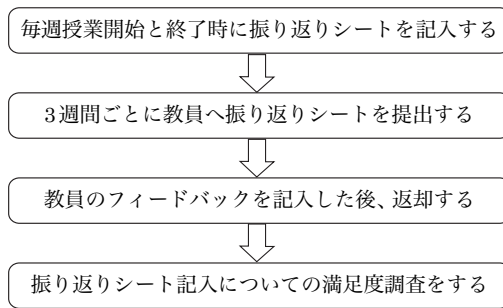


図2 振り返りシート活用の流れ

3.1 振り返りシートの活用効果

振り返りシートの活用は、図3のように、文部科学省の初年次教育方針にもつながっている。平成26年度の大学における初年次教育の中には、「レポートや論文の書き方などの文書作法を身に付けるためのプログラム」、「ノートの取り方に関するプログラム」、「プレゼンテーションやディスカッションなどの口頭発表の技法を身に付けるためのプログラム」などについての実施状況が評価項目として入っている。このような初年次教育を重要視する理由として考えられるのは、大学に入ったばかりの学生は、講義式の大学の授業を受ける際、ノートの取り方、レポートの作成などにまだ慣れてないことが挙げられる。また、大学の授業は、中学高校のように毎日担任の先生と顔を合わせることがなく、細かな指導が比較的に少ないので、より深化した自律学習をする習慣づけが必要であるからだと言える。

②初年次教育の実施状況

初年次教育を実施する大学は、平成26年度においては、710大学（約96%）で、その内、学部全体で実施している大学は694大学（約94%）となっている。

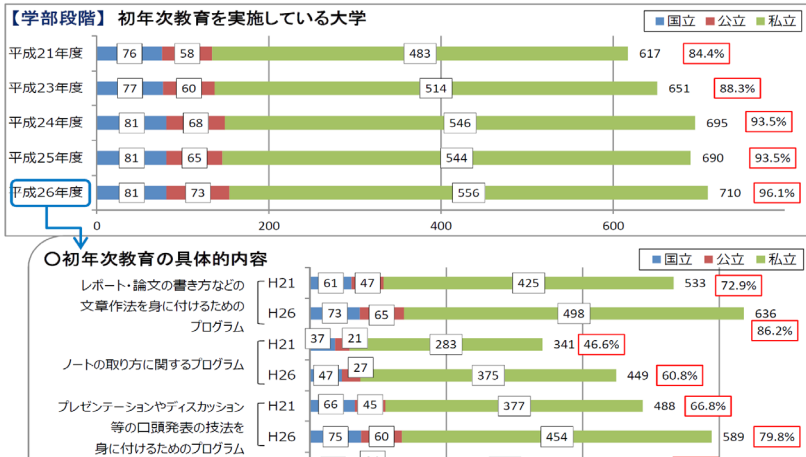


図3 平成26年度大学における初年次教育の実施状況⁵

今回の振り返りシートについて、5段階評価の満足度調査を実施した結果、表1のような評価が得られた。また、図4から図6までは、それぞれの設問項目についての結果である。

表1 振り返りシートの活用についての満足度（5段階評価）

	振り返りシートの記入は、授業を受けることに役に立ったと思いますか	振り返りシートの活用で毎回の準備学習時間が、他教科に比べ、増えたと思いますか	この授業における毎回の振り返りシートの作成は、負担になっていましたか
平均	4.07	3.59	2.2

図4を見ると、振り返りシートが授業を受けるにあたって役に立ったかを尋ねる設問には、118名中87名（73.7%）が4以上の評価をしているので、全体的に満足度の高い評価を受けていると言える。

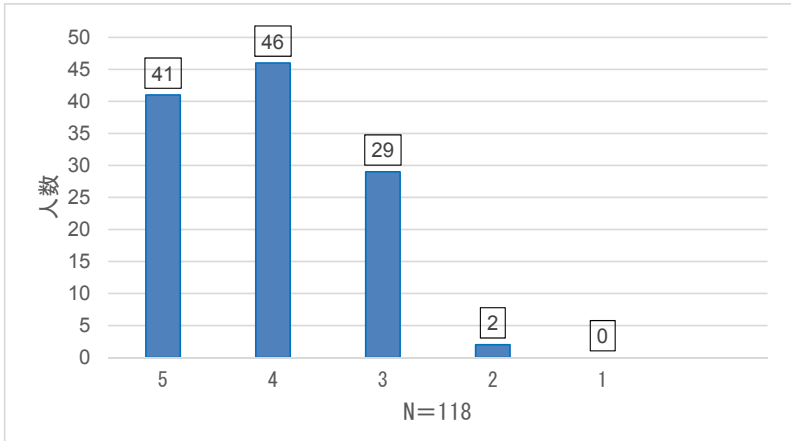


図4 振り返りシート活用についての満足度

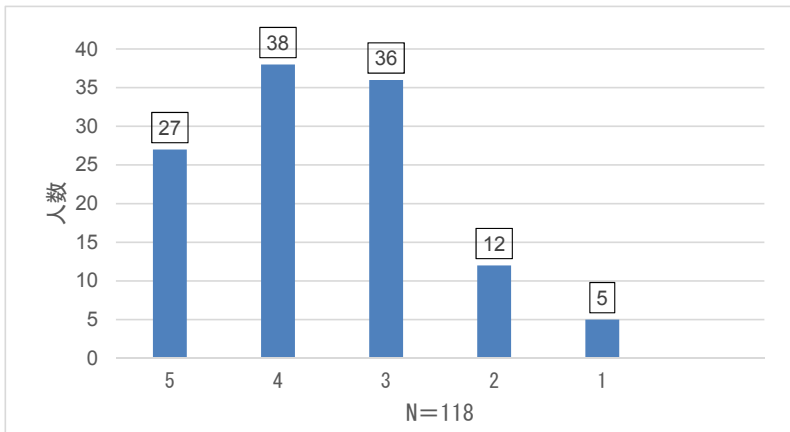


図5 振り返りシート活用と他教科との学習時間の比較

図5は、振り返りシートの活用を通じて、当該科目と他教科との準備学習時間を比較したもので、他教科に比べて学習時間が増えたと回答している学生は、5と4を合わせると、118名中65名(55%)となっており、振り返りシートの活用は、準備学習時間を増やす授業改善の一つの方法であると言えるであろう。

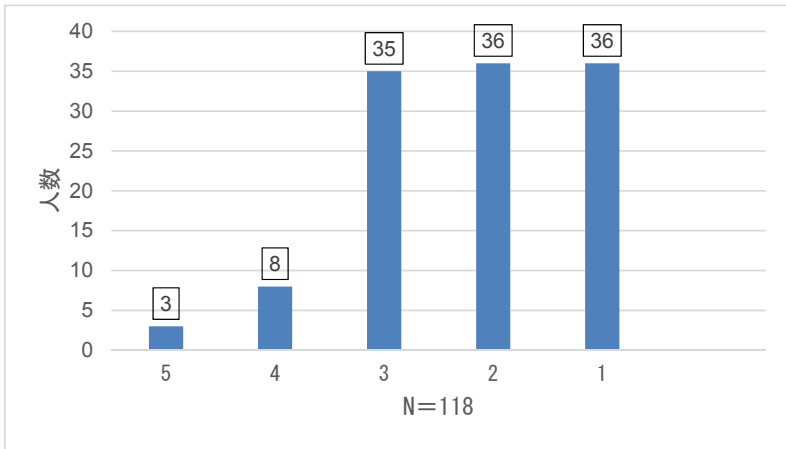


図6 振り返りシートの活用についての負担度 (5が負担が大きい)

図6は、振り返りシートを毎回授業開始と終了時に書くことについて負担の程度を調査したものである。1と回答した人が36名、2が36名で、両方を合わせると72名となり、60%以上があまり負担に思わないと回答している。一方、負担が大きい5と回答した人が3名、4と回答した人が8名で、両方合わせて11名(9%余り)となっており、学生はあまり負担になっていないという結果となっている。

5段階で評価する図5、6、7の3つの項目以外に、振り返りシートを活用するポートフォリオ授業についての学生個人の感想を自由記述にした結果、以下のような意見が得られた。以下は、学生の回答をそのまま提示している。

- ・ 学習の過程が分かるのでよいと思います。
- ・ 韓国語の授業を通して、韓国の文化や言葉に触れることができました。毎回知ることが増えて楽しかったです。冬休みに友達と韓国旅行に行く予定なので、何かの時に役立てばいいと思います。半年間ありがとうございました。
- ・ 今回、何をやるのか、復習・予習は何をしたらいいか明確にわかった。先生のコメント返しが毎回楽しみでした。
- ・ 質問が気軽にできたからよかったです。
- ・ 質問できたり、先生からのコメントがきたりして嬉しかったです。

- ・ 質問に丁寧に答えてくださって嬉しかったです。
- ・ 自分の学習状況を把握できます。
- ・ 自分の課題が見えてきてよかった。
- ・ 紙面上ではあるが、先生とのコミュニケーションがとれるため、先生との距離が近くなる感じがして、その点は個人的によかった。
- ・ 授業中に聞けなかったことを質問できてよかったです。
- ・ 授業内容を忘れずにいられるので復習予習のときに役に立ちました。
- ・ 先生のコメントも帰ってくるので嬉しかった！その授業の復習もできてよかった。
- ・ その日に初めて知ったことや学んだことなどを書き示したり、勉強時間などを記すことで、自然と知識が増えたり学習の習慣がついたので自分の為になりました。
- ・ ファイルを開くことで、いつ何をしたのか振り返りができるので、復習に役に立つと思います。
- ・ 復習とかちゃんとするようになったので良かったと思います。
- ・ 文化について分かったことという項目は、毎回韓国の文化について語ってくれるのでとても良いと思う。
- ・ 平常点に入るから良いと思う。
- ・ 返却のときにコメントが帰ってくると嬉しかった。
- ・ 勉強の効率が良くなりました。
- ・ ポートフォリオのおかげで、勉強時間が増えたと思います。
- ・ 毎回の振り返りシートを書くことで次回に予習しようとする意識を持つようになりました。
- ・ 毎回授業前にポートフォリオを使うので、その日の授業に何をすることが具体的に理解できたのでよかったです。
- ・ 毎回授業内容が整理されていくのでよかった。
- ・ 毎回振り返りシートを作成することで、前回何をしたか分かりやすく、復習しやすかったです。先生からのコメントも楽しみでした。
- ・ 毎回毎回復習や文化について分かってよかったです。
- ・ 毎回振り返りシートを作成することで自分が何をやったのかが分かって良かったです。
- ・ 毎回書くことで自分が何を勉強し、どのくらい予習・復習をしているかがよく分かったなので、自分自身を見つめ直す良いきっかけになったと思います。また、

自分が実際に体験した文化の違いなども共有できたのが良かったです。

- ・ まとめるのは少し大変だったけど、その授業で何を学んだかを振り返ることができるのでよいと思った。
- ・ 見直しをすることができたので、良かったです。メモのかわりになった。
- ・ モチベーションが保てた。
- ・ 予習・復習への意識が強くなりました。
- ・ 予習・復習をするきっかけになった。
- ・ 予習・復習をする習慣が付いたので良かったです。

自由記述は、上記のように肯定的な意見が多かったが、一部には、「他の科目で追い込まれてくると書かなくなりました、予習でどの部分は最低でも見てほしいか書いてほしい」という意見もあった。このような意見を踏まえ、今後の授業では、準備学習の部分についてさらに細かく提示する必要があるので改善していきたい。

振り返りシートについての学生の自由記述に関するデータを KH Coder 2 (安定版) を使って分析すると、図7、図8のように、抽出語の共起ネットワークの結果が得られた。

図7は、品詞による取捨選択を規定値の条件にしたもので、「毎回」、「復習」、「授業」、「予習」、「書く」、「思う」などの語が、出現頻度が高く、円が大きくなっており、中心性の高い語となっている。また、「振り返る」—「シート」—「意識」—「予習」—「書く」、「勉強」—「良い」—「思う」、「先生」—「コメント」—「嬉しい」—「質問」の語が太い線につながっており、共起性が強くなっていることが分かる。

図8は、品詞選択の条件をすべてにした共起ネットワークの結果である。また、表2は、自由記述の962語の内、異なり語数256語から、出現回数の高い語の順であり、2回以上出現した語のみを提示している。

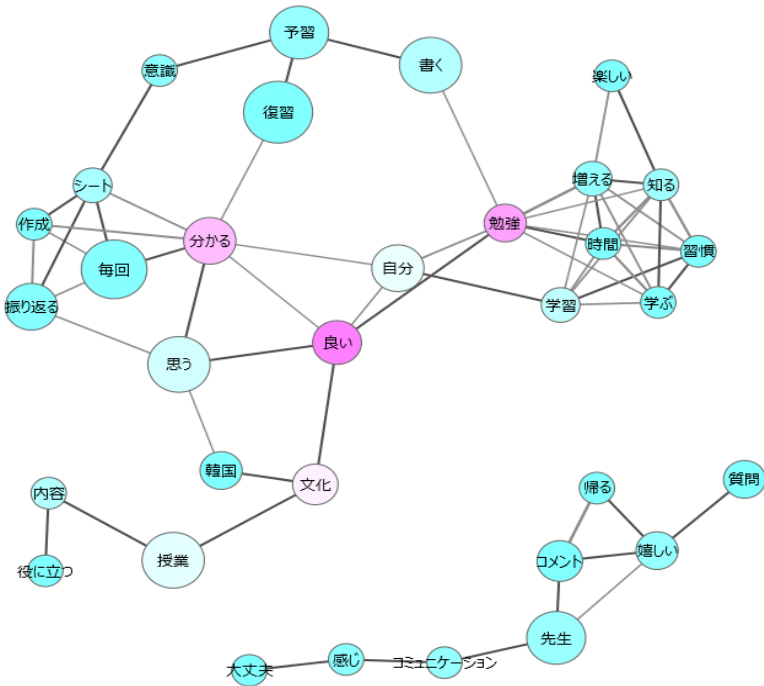
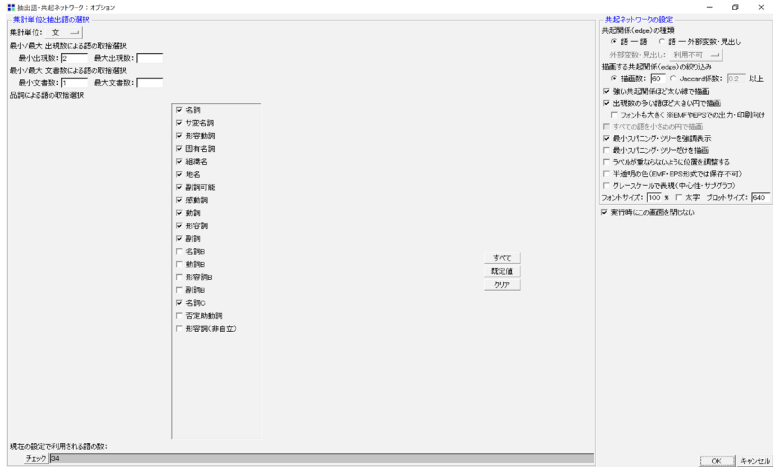


図7 KH Coder2の共起ネットワーク品詞による取捨選択は、規定値で設定

表2 自由記述の出現回数の高い語順 (2回以上のみ)

抽出語 (962 語) 異なり語数 (256 語)	出現回数
復習	12
毎回	11
思う	10
授業	10
書く	10
先生	9
予習	9
自分	7
振り返る	7
分かる	7
良い	6
コメント	5
文化	5
韓国	4
嬉しい	4
質問	4
勉強	4
シート	3
学習	3
増える	3
コミュニケーション	2
意識	2
学ぶ	2
楽しい	2
感じ	2
帰る	2
作成	2
時間	2
習慣	2
大丈夫	2
知る	2
内容	2
役に立つ	2

最後に、学生の自由記述を簡単にまとめてみると、学生だけではなく、教員にも以下のようなメリットが挙げられる。

- ・学生は、自分の学習過程が把握できる。
- ・学生は、自律学習の習慣がつけられる。
- ・学生は、教員とのコミュニケーションがとれる。
- ・教員は、定期的に学生とやり取りすることで、それぞれの学生の学習状況を把握できる。学習時間や勉強の方法についてコメントをすることができる。
- ・教員は、学生一人ひとりとコミュニケーションがとれる。

学生による授業評価アンケート調査の結果を見ると表3に示したとおり、学習ポートフォリオの活用前に比べて活用後では一定の効果が見られた。授業評価アンケート調査は、学期に2教科を実施することになっており、筆者のクラスでは、前期に韓国語Ⅰと韓国語インテンシブ1のクラスで実施している。その結果、1年次対象の韓国語Ⅰのクラスで、A1、A2、C8、C9の項目で一定の授業改善効果があったと言える。特に、A2の準備学習についての項目は、5段階のなかで、4以上の割合が、実施前は20%未満であったが、実施後は60%以上になっている。これは、毎週の振り返りシートを導入することで準備学習の必要性について学生に気づかせることができたと考えられる。しかし、振り返りシートの項目を見直して続けて実施することで今後さらに検証していく必要があると思われる。

表3 授業評価アンケート調査の結果

		2016 前期 韓国語Ⅰ 当該講義	2017 前期 韓国語Ⅰ 当該講義
A1	あなたはこの授業に積極的に参加しましたか。	4.39	4.55
A2	この90分の授業のために授業時間外に1週間当たり、どのくらい時間を充てていますか。	2.53	3.73
C8	この科目を受けて自他の文化の違いに対する理解が深まりましたか。	4.56	4.64
C9	この科目を受けて他者と協同する力が向上したと思いますか。	4.39	4.82

3.2 プロジェクト授業における日誌の活用

3.2では、2年次以上を対象としているインテンシブクラスのe-ラーニング授業で実施した授業内容の一部を紹介する。このクラスでは、グループでプレゼンテーションをする課題を課して、学習者同士の学び合いを促す協同学習に積極的に取り組んでいる。また、学習者が毎回日誌（資料4と5）を書いて当日の授業について全体的な振り返りを行う。グループのプロジェクト発表については、ルーブリック評価を取り入れることで学習者同士がお互いに評価し合うようになっている。人の前で自分の意見を大きな声で述べるプレゼンテーション能力の育成だけでなく、表4のルーブリック評価を利用して教員からの評価だけでなく、学生同士もお互いに評価し合うため、他の学生の発表に対するクリティカルシンキングを育成することができる。この授業のなかで教員の役割は、回りながら助力者として、質問を受けたり、アドバイスしたりすることである。

授業の流れとしては、まず、関心のある分野についてグループで話し合い、テーマを決め、資料調査をする。それから、パソコンを使って韓国語でパワーポイント資料を作成してプレゼンテーションをすることで、学生の自律的な学習につながる。また、学生同士で協同作業をすることで意見を調整するなどの協調性を育成することができる。この授業の目的は、学生自ら関心のあるテーマについて、プレゼンテーションをするため、グループで意見交換を行い、聞き手を意識しながら分かりやすく伝えることにより、コミュニケーション能力、協同力、プレゼンテーション能力などを培えることである。授業は韓国語で行われるので、韓国語の言語能力の観点からみると、読む、書くだけでなく、話す、聴くという4技能の総合的な向上が期待できる。また、パソコンを使って韓国語のキーボード入力にも慣れ、パワーポイント作成により、文書作成能力の育成も可能になる。

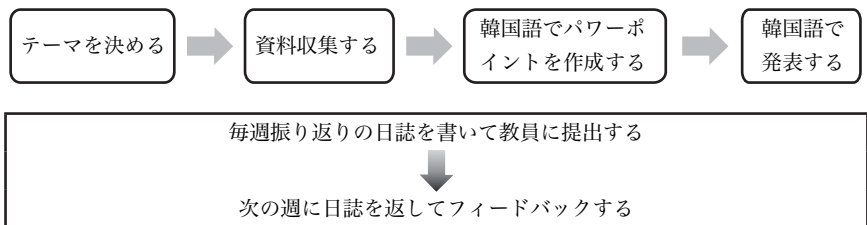


図9 プロジェクト授業の流れ

表4 PPTを使用したテーマ発表についてのルーブリック評価

	4 大変よくできました	3 よくできました	2 もう少し頑張りました	1 もっと努力が必要です	ポイント
内容	テーマと関連する必要な内容について創造力を使って表現している。細かい点も詳しく説明している。内容も正確に理解できる。	テーマと関連する適切な内容をカバーしている。創造力を持って詳しく説明している部分もある。内容も正確に理解できる。	テーマについて、必要な内容を大体カバーしているが、細部は示されていない。内容はほぼ正確に理解できる。	テーマについて、最低限の内容、あるいはそれ以下しかカバーされていない。内容に理解できない部分もある。	
パフォーマンス	生き生きとした大きな声でスムーズに発表している。また、聞く人の興味をひく話し方である。	大きな声ではあるが、発表に途切れがあり、時々速度が落ちた。聞く人に分かってもらおうという努力が伝わってくる。	声が小さく、発表が途切れることが多い。話し方も単調で、メリハリがないが、ある程度聞く人を意識している。	声があまりにも小さく、聞きにくかった。発表も途切れ、聞く人に分かってもらおうとする意識があまり伝わっていない。	
PPT作成	視覚的に非常に分かりやすくPPTを作成している。	分かりやすくPPTを作成している。	分かりにくい部分もあるが、全体的に理解できるようなPPTを作成している。	PPTの作成に全体的に慣れていない。	
発表における韓国語の発音	韓国語の発音に多少問題はあっても、伝えたいことは完全に理解できる。	韓国語の発音の大きな間違いが時々あり、理解しにくいところはあるが、テーマを理解するには支障はない。	韓国語の発音の重大な間違いのために、時々理解できないところがある。	韓国語の発音の問題が多く、理解できない部分が多い。	
全体的な韓国語の表現	韓国語での文の作成において、このクラスのレベルに、非常に適切である。	韓国語での文の作成において、このクラスのレベルから離れているところもあるが、適切と言える。	韓国語での文の作成において、このクラスのレベルから少し離れていると思う。語彙・表現などが非常に難しくかつた。	全体的な文の作成において、このクラスのレベルからは非常に離れていると思う。語彙・表現などが非常に難しくかつた。	
合計点					/ 20

4. まとめ

「学習ポートフォリオ」の活用は、1学期または1年間を通して自分ほどの学習過程にいるかを確認させ、気づかせることができる。言語を教える教授者(教員)は、目標言語を教えるとき、学習者に気づかせる様々な活動によって学習目標を達成できるように教えることが大事である。大学の質的な改革が求められているなかで、学生に事前・事後学習の大切さを気づかせ、能動的に取り組む力を育成するための一つの方法として、「振り返りシート」を活用することで、7割以上の学生から5段階のうち、4以上の肯定的な評価が得られ、一定の改善が見られた。

大学の韓国語授業でポートフォリオの振り返りシートを活用することにより、韓国語の言語能力の向上だけではなく、次のようなメリットが挙げられる。

- ① 振り返りシートの作成で学生自身が自己省察の時間を作ることができる。
- ② 事前・事後学習の必要性について気づきができる。
- ③ 自律学習についての気づきができる。
- ④ 自他の文化について気づきができる。
- ⑤ ペアワーク、グループワークなどを通じて学生同士の協同学習ができる。
- ⑥ 教員との振り返りシートのやり取りのなかで教員との個人的なコミュニケーションができる。
- ⑦ 小テストなどの学習記録をファイリングすることで学習過程が分かる。

最後に今後の課題を述べる。教員は、学生一人ひとりの振り返りシートに対し、質問やコメント、助言などのフィードバックを振り返りシートに記入して返すのは、教員にとってかなりの労力と負担がかかる。このような教員の負担をどのように軽減するかを考えなければならない。また、今回はポートフォリオの活用が初めての試みであり、データ数も少ないため、学習ポートフォリオを今後も続けていくことで、学生たちの学習に対する傾向を把握し、自律的な学習を促すための授業改善策をさらに探っていく必要があると考える。

注

¹以下のウェブサイト参照している。〈2017年10月15日現在〉

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm

²平成24年8月の中央教育審議会の答申では、大学における「学ぶこと」を「学修」とするとなっているが、本稿では、「言語を教える教授」と「言語を学ぶ学習」という観点から2節以降は、「学習ポートフォリオ」という用語を使うことにする。

³本学における「振り返りシート」の活用については、文学部心理学科においては「学修ポートフォリオ」、平成26年度より経済学部で「学修振り返りシート」、商学部で「振り返りシート」を運用開始している。詳細は、下記のウェブサイトから確認できる。

<http://up.j.shigaku.go.jp/school/category02/00000000673301000.html#GCA03CA031>

⁴CiNii(NII 学術情報ナビゲータ[サイニィ])で「学修ポートフォリオ」で論文検索した結果は15件、「学習ポートフォリオ」では39件が出ている。〈2017年10月15日現在〉

⁵文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室資料、平成28年12月13日「平成26年度大学における教育内容等の改革状況について(概要)」の一部である。p.14.

http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigaku/04052801/_icsFiles/afieldfile/2017/09/06/1380019_1.pdf 〈2017年10月15日現在〉

参考文献

- (1) 和泉伸一(2016)『フォーカス・オン・フォームとCLILの英語授業：生徒の主体性を伸ばす授業の提案』アルク
- (2) 金孝卿(2008)『第二言語としても日本語教室における「ピア内省」活動の研究』ひつじ書房
- (3) 清田洋一(2017)『英語学習ポートフォリオの理論と実践：自立した学習者をめざして』くろしお出版
- (4) 河野義章(2013)「大学における授業振り返りシート導入の試み」『昭和女子大学生活心理研究所紀要』第15号, 11-20.
- (5) 下絵津子(2007)「第二言語教育におけるポートフォリオの活用」『宮崎公立大学人文学部紀要』第14巻第1号, 149-167.
- (6) 橋爪孝夫(2016)「教養教育における学修ポートフォリオ活用の試み」『山形大学高等教育研究年報：山形大学高等教育研究企画センター紀要』第10巻, 53-58.

- (7) 村田美子(2002)「学びを促すポートフォリオ評価」日本言語テスト学会研究紀要 第5巻, 1-11.
- (8) 吉重美紀(2016)「英語の授業におけるポートフォリオの活用」『鹿屋体育大学学術研究紀要』第52号, 25-33.
- (9) Stevens, D. D., & Levi, A. J., 佐藤浩章 監訳(2015)『大学教員のためのルーブリック評価入門』多摩川大学出版部

<韓国の参考文献>

- (10) Brown, J. D. (2014)「The Importance of Rubrics in Language Assessment」『国際韓国語教育学会第24次国際学術大会 proceedings』, 3-13.
- (11) So, Man-Seob (2011)「外国語教育における学習ポートフォリオの活用問題」『独語教育』第50巻, 29-51.

参考ウェブサイト

- (1) 独立行政法人国際交流基金ヨーロッパ日本語教師会(2005)『ヨーロッパにおける日本語教育事情とCommon European Framework of Reference for Languages』, 52-62. (2017年10月15日現在)
<http://www.jpff.go.jp/j/publish/japanese/euro/index.html> (2017年10月20日現在)
- (2) 文部科学省中央教育審議会答申資料、平成24年8月28日
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm
(2017年10月15日現在)
- (3) 文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室資料、平成26年度の大学における教育内容等の改革状況について(概要)、平成28年12月13日
http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigaku/04052801/_icsFiles/afieldfile/2017/09/06/1380019_1.pdf (2017年10月15日現在)
- (4) Zubizarreta, J., • Columbia College, SC (2008) The learning portfolio: A powerful idea for significant learning. *IDEA PAPER #44*, The IDEA Center Manhattan, Kansas.
http://www.ideaedu.org/Portals/0/Uploads/Documents/IDEA%20Papers/IDEA%20Papers/IDEA_Paper_44.pdf (2017年10月15日現在)

資料1 学生の振り返りシート

名前：

第1回目	月 日
シラバスを確認して、 今日のスケジュールを書きましょう。	
何を予習しましたか。	
何を復習しましたか。	
文化について分かったことを書きましょう。	
今日の授業を受けて、ひとこと感想を書きましょう。	
質問があれば書きましょう。	

資料2 15週目のポートフォリオ活用についての満足度調査シート(無記名)

ポートフォリオ活用授業についての満足度					
番号にマルをつけてください。					
1. 本授業のポートフォリオの振り返りシート記入は、授業を受けることに役に立ったと思いますか。	5	4	3	2	1
2. 振り返りシートの活用で、毎回の準備学習時間が、他の教科に比べてみて増えたと思いますか。	5	4	3	2	1
3. この授業における毎回の振り返りシートの作成は、負担になっていましたか。	5	4	3	2	1
* 毎回の振り返りシート作成をするポートフォリオ活用授業について、皆さんの感想を簡単にお書きください。(自由記述)					

資料4 プロジェクト活動の日誌

プロジェクト活動 日誌

名前：

월 일	프로젝트 활동 ___ 번째
<p>今日は何をしましたか。오늘은 무엇을 했습니까?</p>	
<p>今日できなかったことは何ですか。오늘 못한 것은 무엇입니까?</p>	
<p>今日の活動で勉強になったことは何ですか。(PCなどの技術的なことも含む。) 오늘 활동에서 공부가 된 것은 무엇입니까?</p>	
<p>今日のグループ活動に積極的に参加しましたか。 오늘 활동에 적극적으로 참여했습니까?</p> <p style="text-align: right;">☆☆☆ ☺ ☆☆ ☹ ☆ ☹</p>	
<p>先生のメモ</p>	

資料5 学生のプロジェクト活動の日記記入例

プロジェクト活動 日誌

프로젝트 활동 일지

名前:

7월 19일	프로젝트 활동 12 번째
今日は何をしましたか。오늘은 무엇을 했습니까? 마지막 확인을 해서 다음주의 발표 준비를 했습니다. ← 잘했습니다!	
今日できなかったことは何ですか。오늘 못한 것은 무엇입니까? 스らす라 읽는 것과, どのタイミングで "스라이드"를を進めるかを もう少し練習して 本番に備えたいです。맞아요!	
今日の活動で勉強になったことは何ですか。(PCなど技術的なことも含む) 오늘 활동에서 공부가 된 것은 무엇입니까? 녹음をして 自分の発音を聞いて서, 言えてない音部分などが よくわかった。→ 좋은 공부가 되었어요!	
今日のグループ活動に積極的に参加しましたか。 오늘 활동에 적극적으로 참여했습니까? ☆☆☆😊 ☆☆☆😐 ☆☆☆😞	
先生のメモ 발표 준비 수고하셨습니다. 7/19	